



愛郷無限

2016年03月11日号 NO.0538

写真提供:大田市

土屋館
どやだて
通信

発行者：大曲・花火通り商店街
文責：辻

お問い合わせ：080-1265-7035
tuck-t@akita-tsujiya.jp

Subject：あの日から五年です

東日本大震災と津波被害、福島第一原発の大事故から丸五年が経ちました。テレビ・新聞などマスコミはこぞって震災の特集が組まれ、現地の今を伝えるとともに、たくさんの悲しみ、怒り、絶望、そして希望が画面に映し出され、私たちはあのときを思い出します。

あれから5年です。自分なりに当時を振り返ってみたいとその頃のドヤツーを読み直しました。実際に現場で見てきた被災地の状況、支援物資の募集など当時の状況を思い出しました。自分自身が体験したこともない局面で、思いばかりが空回りして、少々過激な言動をしていたことは若気の至りと反省至極です。

青年部、商店街、年代会などたくさんの仲間が私事を放りだして集まり、被災地に出向き、炊き出し、物資の搬送を繰り返す中で、想像を超える沢山の方から、信じられぬほどの物心両方のご協力をいただいたことを改めて痛切に感じました。

皆様からいただいた支援物資は、私たちの集積場所が溢れかえり、野外に置かねばならぬほどでした。当地でも物資が不足している中で、これだけたくさんの品々が集まったのは驚きでした。メンバーは、「誰の誉れでもない、地域の方々の心を私たちが代理として届けに行くだけの役目」だと自戒の念で繰り返し話し合っていたことを思い出します。当地域の方々の【怒】の心の素晴らしさに感動したことが思い出されます。

誰の言葉か出典が分からないのですが、以前ドヤツーでも紹介した田中角栄が良く話していた言葉として「かけた情けは水に流し、受けた恩は石に刻め」とあります。仏教に古くから伝わる言葉で、各地に記した碑もたくさんあるようです。

人間は忘れる能力を授かったが故にここまで進歩することが出来たそうです。しかし5年を経た中で、絶対に忘れてはならないこと、忘れてしまった方が良いこと、両方が混在しています。私たち、直接の被害を受けていない者には分からない・複雑な気持ちが被災地にはまだまだ沢山あると思います。忘れない、前に進もうなどと軽々しく言えません。我々凡夫に出来ることは、ご縁を続けていくことくらいでしょう。

◆3月27日(日) 10時～ ペアーレ前広場

今年3回目の土屋館わいわい広場・ゆりあげ港出張朝市です。1月・2月はたくさんの来場者に【買って応援】いただけました。本当にありがたいことです。

3月もたくさんの水産加工品を名取市閑上港から直送してきます。

皆様のご来場、心からお待ちしております。